

ロードマップについて

【背景】

本校には、自己成長を感じにくい、自己肯定感や自己有用感が低い生徒が多く、レジリエンスなど踏ん張れる力の弱さがあることが、授業や行事などの生徒の様子から分かった。教職員ではなく生徒自らが自分の強みや成長、実績を感じられ自己有用感が感じられるツールを求めていく中で「ロードマップ」の作成にたどり着いた。

【経過】

1)ロードマップ検討チーム構成

長野県の「困り感を抱える子ども」担当者、発達障がいに関する専門家、学校職員で構成

2)議論の経過(R3～5)

■R3年度

- ・目的と目指すもの→生徒が受ける利益、期待値と効果
- ・自己評価軸素案を作成→検証→主体性の低さと生徒の判断や概念で難しさあり「廃案」
- ・検証→自己成長を記録し理解を深めるツールは、キャリアパスなど多く存在するが、不登校等の理由で学校生活や社会経験が少ない生徒にとっては表現しづらいものだった。

■R4～5年度

- ・実証開始(各学年、各クラスごとの運用)
- ・自己評価軸を通称「ロードマップ」 → 職員間で「観点」を確認
- ・「めざすもの」は「なりたい自分」 → 自分の成長を実感できる工夫をした

3)令和5年度の実証

- ・学校でR3年度末に作成したロードマップを元に学年毎に統一性を持ち、生徒の実態を踏まえた工夫がされ活用方法が生み出された。
- ・教職員への理解を深めるため、めざすものや活用場面を明確にできた。
- ・検討委員を再構成し、検討会議を年3回実施。目的や手法など再度共有し、第3回検討会では各学年の教室を訪問し、ロードマップの実物に触れ、活用状況を確認しながら検証を行った。

【検証】

- ・生徒を評価するための評価ではない、など「軸」を繰り返し配達(注釈※情報共有するための公平な発信を日常的に行うことを校内で使用している)していくことが必要。
- ・積み上げてきたものは形となって出てくる。ロードマップの理念を全職員で読み合わせ共有したい。
- ・生徒が自分を飾ることなく自由に表現できるツールや環境となっていることが分かった。
- ・成長や変化を生徒自身が見てとれている。
- ・生徒の意識の変化がみられている。このポイントは「生徒の表現」を徹底しているからか。検討した教職員側の効果のポイントを今後検証できたらよい。
- ・教職員が多様な個性を理解し生徒の目指したいことに寄り添えるものとなり、教育相談の場面や学校生活、進路で活用し自己肯定感や自己効力感に繋がってきている。
- ・ロードマップの軸(イムズ、ビジョン)を継承し続けるためには、「学校運営計画」に反映させ、目的や背景を教職員が共有すること。
- ・その生徒に合ったロードマップがあってよい。表現の仕方には十分配慮し個に寄り添った対応をしていく必要がある。
- ・ロードマップをこの学校の文化としたい、という希望も挙がった。
- ・個人情報をあえて公表している所が良い雰囲気=(安心・安全な場)継続できるよう積み上げたい。

【めざすもの】

自分の成長を感じられるもの
その子らしさがわかるもの
自分の軌跡を辿れる

【R3年の期待値と効果】

生徒自身が個別に計画を作成し振り返ることで
自己の成長を知れる
+
本人に合った指導が可能になる

【注意すること】

生徒を評価する評価とにならない
生徒の自由な表現を尊重する
負担にならないもの

【形骸化しないための工夫】

職員に伝え続け共有する
シンプルで
「どうなりたいか」くり返し問う
+
(R6年～)運営計画に入れる

ロードマップについて

【ロードマップとは】

3~4ヵ月毎に振り返りを行い、生徒自身が自らの成長や変化を肯定的に感じることができる記入式シートと、生徒会活動や感想記入シート、校外学習のしおりなど様々なものを自由にファイリングできるオリジナルのファイルを目指す(決して生徒を評価するための評価シートではない)

また、生徒本人がめざしたいことなど「その人らしさ」をポジティブに目標として表現できるものである。

学年ごとに様式・活用方法は異なるが、ファイル1冊に自らの軌跡を残し自分の足跡やありようが見返せるものとなっている。記入シートは友人や教職員、保護者から肯定的な評価をする項目もあり、自己有用感も得られ、ひいては自己肯定感の向上にもつながるものと考えている。

今後も、必要に応じてアップデートし、より生徒の成長に繋がるものにしていきたい。

1年

【学年ごとの工夫】

- ・2か月の「短期目標」を教室掲示
- ・都度、ふりかえりファイリング
- ・互いに承認できる「いいね！」シール
- ・自己評価点で達成度の視える化
- ・生活ノートの気づきから転記でもOK

【成果・効果】

- ・「個」を認識できる
- ・互いに承認し合える
- ・他者を知るきっかけとなっている

2年

- ・個々の「書きやすさ」を尊重
- ・活用しやすさ、記入のしやすさを考慮したフォーマットもあり
- ・自分の気持ち、できたこと
- ・進路に向き合う難しさがあり第一歩として自己表現ツールとしても活用

- ・他者へ弱音が吐けるきっかけになっている
- ・自分を理解するきっかけとなった
- ・「なりたい像」が無い生徒も「なりたくない」は表現できた

3年

- ・ロードマップのシートのほか何でも挟み込んでOK
(校外学習しおり/実習うちあわせ・評価/ボランティア活動/生徒会活動/キャリアガイダンスetc)

活用場面

- 履歴書作成/自己PR作成
- 進路相談
- 三者面談

- ・担任の生徒像のずれが解消
- ・保護者にも記入してもらい共に成長を感じて貰えることができた
- ・家庭での違う一面も知れた
- ・成長を生徒と保護者と確認できたことで進路選択が統一できた
- ・積み上げた記録から成長を尺度として感じることができた

【その他効果】

◇入学時は中学からの情報もあるが、ロードマップで在り様がわかる(1年)

◇クラスが変わっても担任はロードマップで生徒の成長や進路の意向、変化が理解できる

◇「進路実現の手引き」と併用させることで進路指導がスムーズになっている

【課題】

継承していくための
検討会の継続

文化として残す
ための工夫(議論)
が必要

【ロードマップとは】

積み上げていくもの
形成的評価であること
自分の足あとがわかる
振り返ることで成長を
実感できる
自己PRで使える
自己分析に役立つ

課題
発見

自己
理解

自己
肯定感

自己
有用感